

令和4年度「中学校の部活動に関するアンケート」集計・分析結果

令和5年3月27日
一宮町教育委員会

1 目的

児童生徒や保護者を対象とした部活動に関するアンケートを実施し、現状を把握・分析することで、よりニーズに合った地域のスポーツ・文化活動形成の一助とする。

2 対象者

- (1) 小学校5・6年生の児童及び保護者
- (2) 中学校1・2年生の生徒及び保護者
- (3) 中学校部活動顧問

3 実施方法

Google Formsを利用したWeb回答

4 回答期間

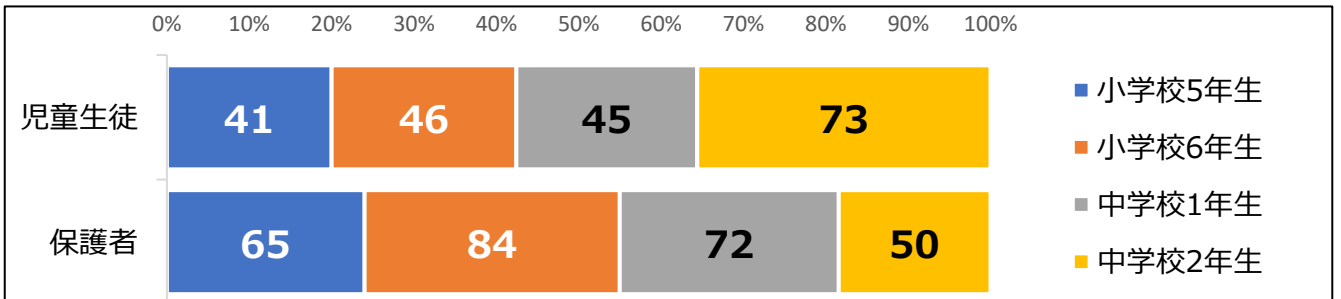
令和5年1月18日（水）～1月31日（火）

5 回答数・回収率

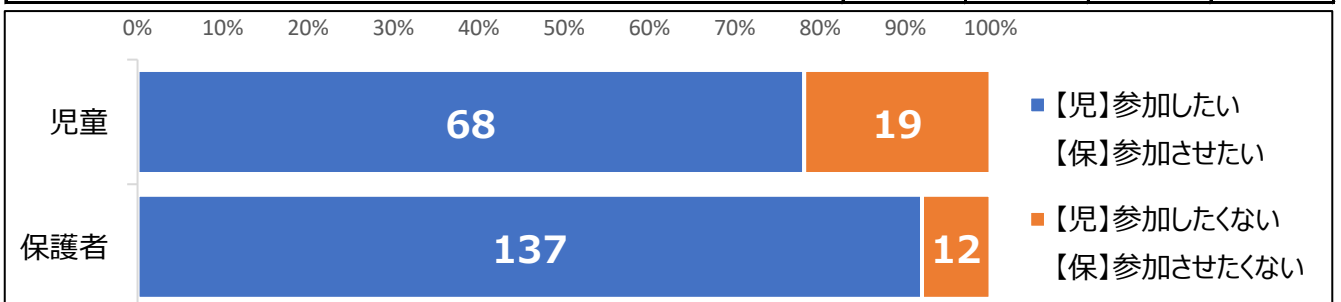
	小学校			中学校			合計		
	対象数	回答数	回答率	対象数	回答数	回答率	対象数	回答数	回答率
児童・生徒	240	87	36.3%	210	118	56.2%	450	205	45.6%
保護者	240	149	62.1%	210	122	58.1%	450	271	60.2%
部活動顧問				23	20	87.0%	23	20	87.0%

6 アンケート結果

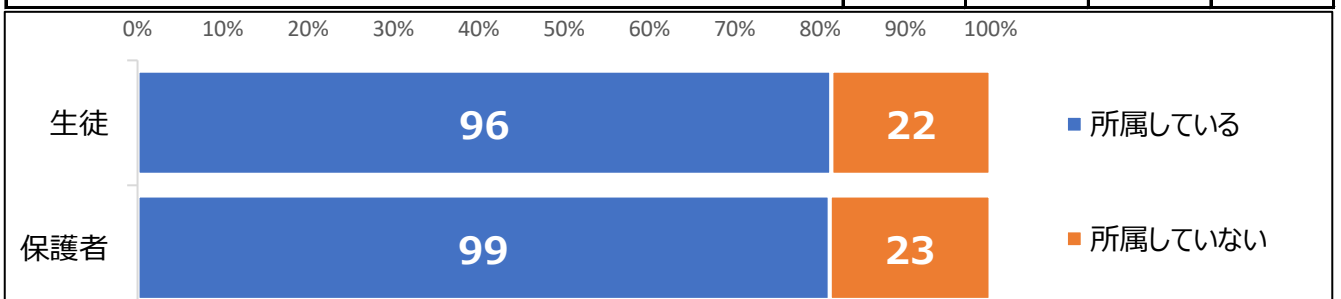
Q1 【児童生徒】あなたの学年を選んでください。 【保護者】 お子様の学年を選んでください。	児童生徒		保護者	
	205	割合	271	割合
① 小学校5年生	41	20.0%	65	24.0%
② 小学校6年生	46	22.4%	84	31.0%
③ 中学校1年生	45	22.0%	72	26.6%
④ 中学校2年生	73	35.6%	50	18.5%



Q 【児童】中学校へ入学したら、部活動に参加したいですか。 2-1 【保護者】中学校へ入学したら、お子様を部活動に参加させたいですか。(小学生保護者のみ回答)	児童		保護者	
	87	割合	149	割合
① 【児】参加したい 【保】参加させたい	68	78.2%	137	91.9%
② 【児】参加したくない 【保】参加させたくない	19	21.8%	12	8.1%

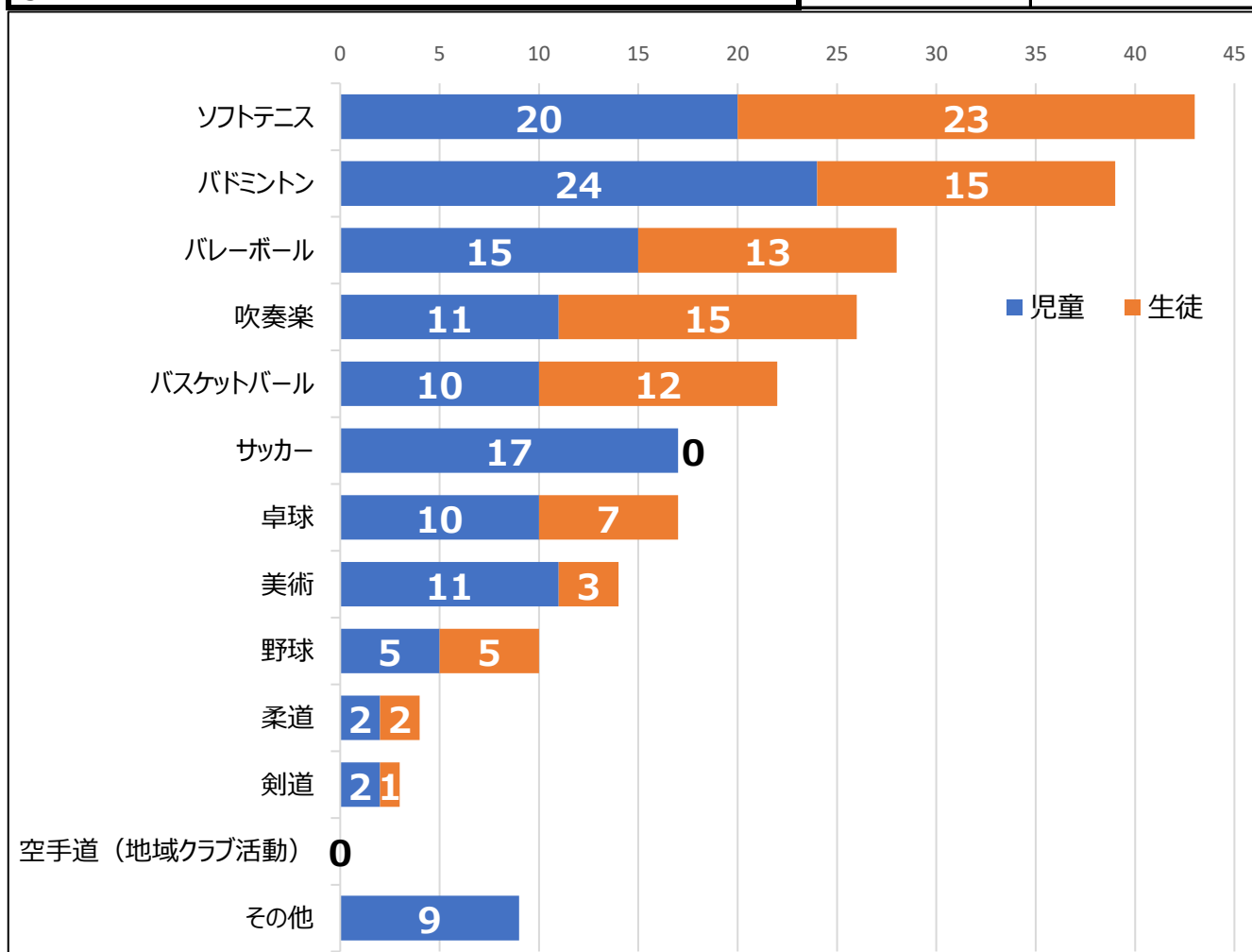


Q 【生徒】現在、部活動に所属していますか。 2-2 【保護者】現在、お子様は学校の部活動に所属していますか。(中学生保護者のみ回答)	生徒		保護者	
	118	割合	122	割合
① 所属している	96	81.4%	99	66.4%
② 所属していない	22	18.6%	23	15.4%



球技系の運動部や文化部は一定の希望者があり、今後も部員の確保が見込める

Q 【児童】中学校で入りたい部活動名を教えてください。 3-1 (複数選択可)	児童	生徒
Q 【生徒】所属している部活動名を教えてください。 3-2	136	96



その他：陸上 3 ダンス 2 硬式テニス、サーフィン、水泳、パソコン 各1

現在、部員数の多いソフトテニスやバドミントン、吹奏楽、バレー、バスケットボールなどについては、今後も一定数の入部希望があると考えられます。また、現在、部員数が少ないサッカー部、美術部についても、今後、大幅な部員の増加が見込めます。一方、柔道、剣道、地域クラブ活動の空手道については、今後も少数での活動となることが考えられます。

また、小学生の「その他」として、陸上やダンスなどの希望が挙げられており、中学校の部活動にない種目にも一定数の需要があることが考えられます。

部活動に求めるものとして、「個人の成長」「人間関係」「体力・技術向上」を重視

Q4 中学校の部活動に求めるものとして、あなたの考えに近いものはどれですか。（複数選択可）	小・中学生		保護者	
	602	割合	918	割合
① 大会やコンクールなどでよい成績を残すこと	90	15.0%	56	6.1%
② 体力や技術を向上させること	132	21.9%	193	21.0%
③ 人間として成長し、自信をもてるようになること	91	15.1%	211	23.0%
④ 仲間とよい人間関係をつくること	141	23.4%	231	25.2%
⑤ スポーツや文化に親しみ、楽しむこと	89	14.8%	146	15.9%
⑥ 1つに限らず、興味をもった活動を体験すること	48	8.0%	78	8.5%
⑦ その他	11	1.8%	3	0.3%

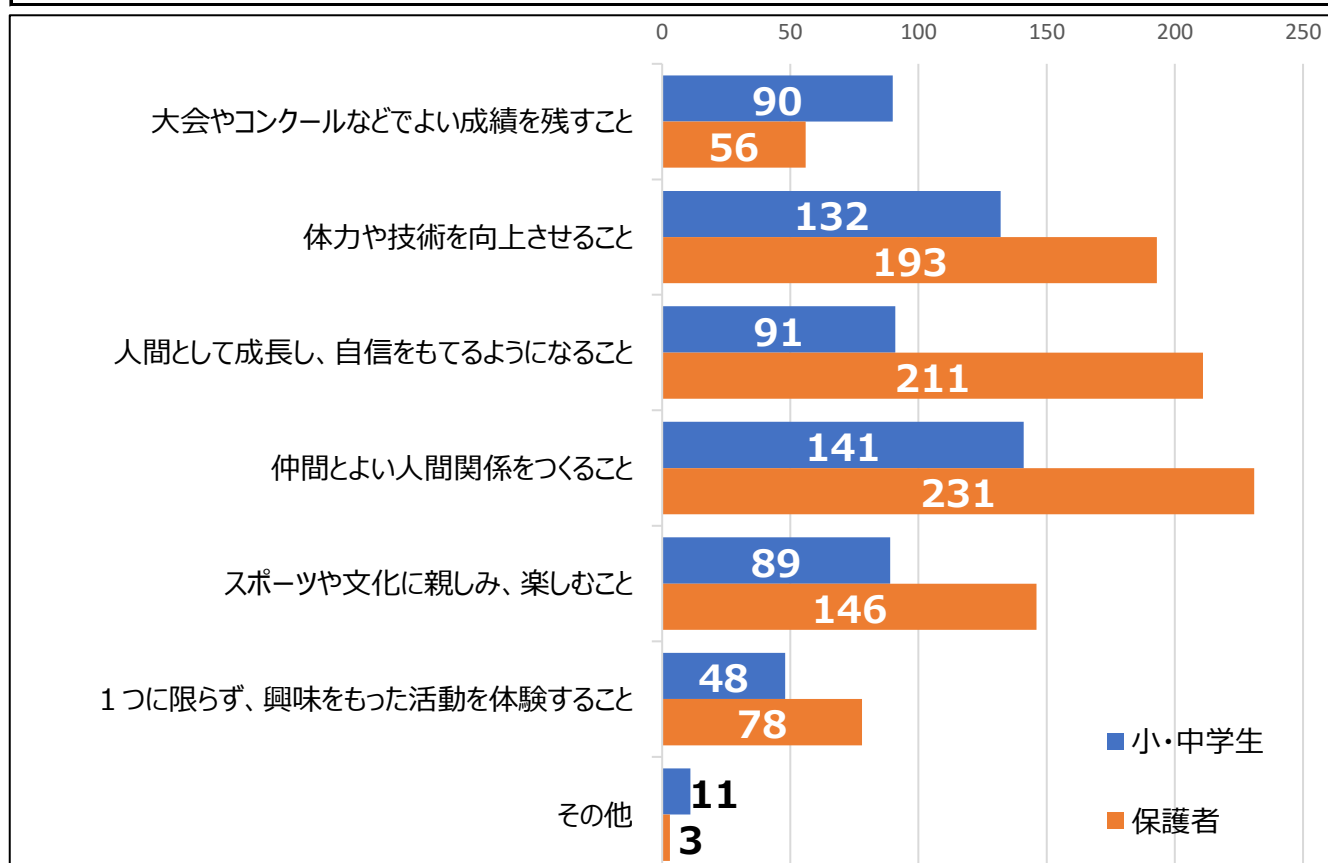
「その他」の記述

【小・中学生】

- ・高校に向けての部活の練習
- ・たくさんの経験を体験する
- ・楽しむこと
- ・絵を描きたいから
- ・中学生生活の最高の思い出を作りたい
- ・青春を楽しむこと
- ・楽しい思い出を残すため
- ・気楽に運動できること
- ・程よく頑張ること
- ・期待することは特にない
- ・まだ考えられない

【保護者】

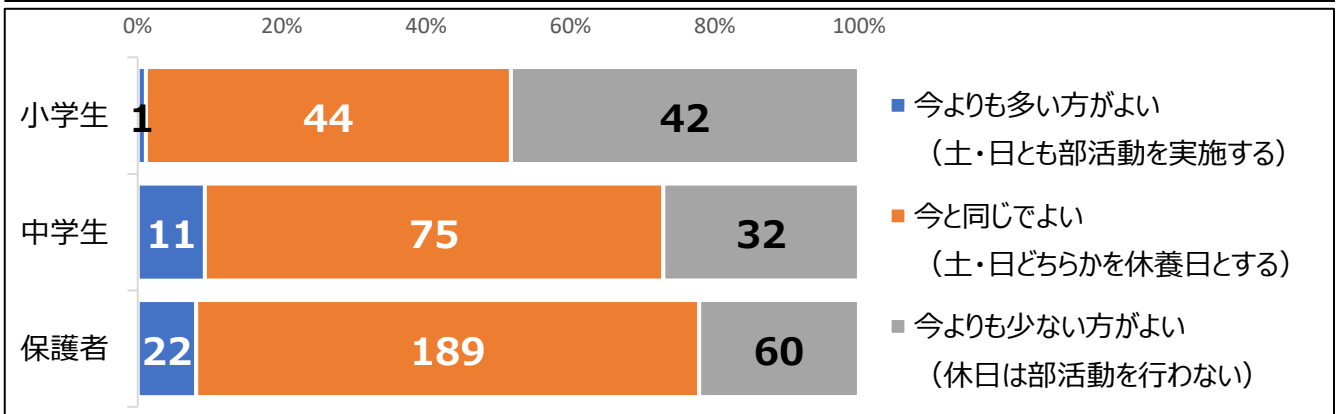
- ・青春をつくる
- ・肥満防止
- ・内申点



児童生徒・保護者とも、「仲間とよい人間関係をつくる」「人間として成長し、自信をもてるようになる」「体力や技術を向上させる」の項目が上位となっていますが、全体として「人間関係＞体力・技術向上」の構図となっています。また、「1つに限らず、興味をもった活動を体験する」が、他の選択肢と比較して少ないのは、中学校の部活動が原則的に兼部を認めていないことが影響していると考えられます。

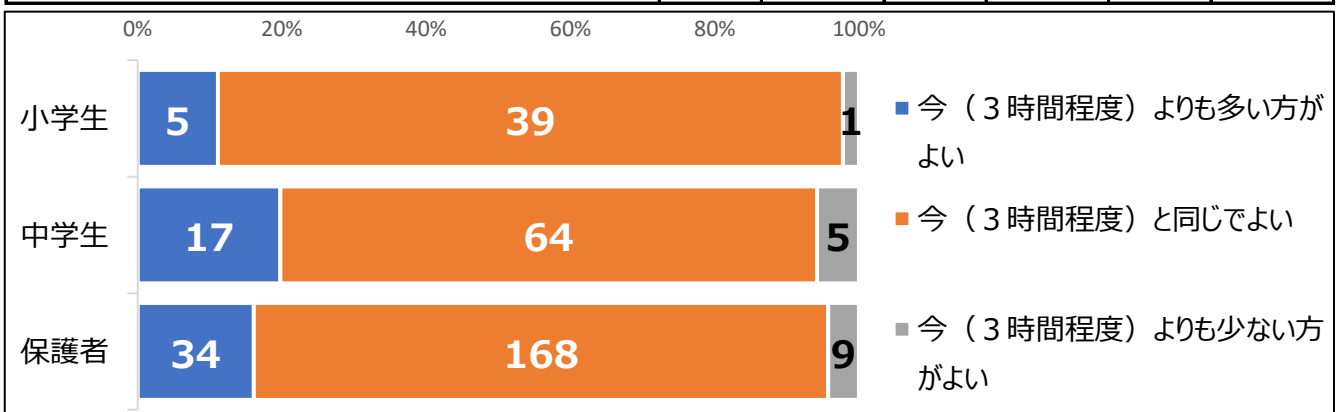
中学生の約3割、小学生の約5割が、「休日は部活動を行わない」ことを希望

Q5 中学校の休日部活動の日数について、最も当てはまるものを選択してください。	小学生		中学生		保護者	
	87	割合	118	割合	271	割合
① 今よりも多い方がよい (土・日とも部活動を実施する)	1	1.1%	11	9.3%	22	8.1%
② 今と同じでよい (土・日どちらかを休養日とする)	44	50.6%	75	63.6%	189	69.7%
③ 今よりも少ない方がよい (休日は部活動を行わない)	42	48.3%	32	27.1%	60	22.1%



一宮町では、休日部活動の休養日を、原則週1日以上としています。しかし、「今と同じでよい」と回答している生徒・保護者の割合が6割強～7割弱であるのに対し、児童は約5割と少なく、逆に「今より少ない方がよい」と回答している割合が半数に上ります。児童は、小学校と同じく中学校でも、「休日は部活動を行わない」ことを求めている割合が多いことが分かります。

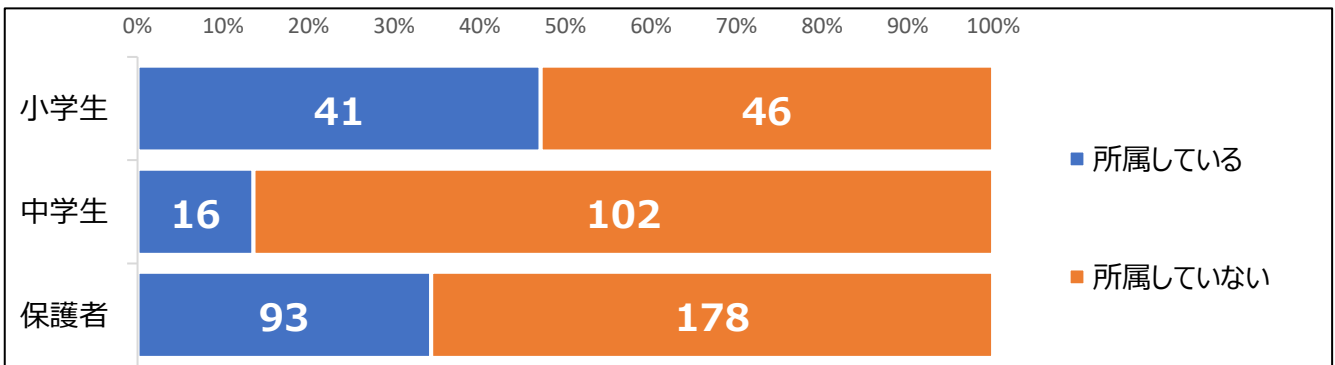
Q6 休日の活動時間について、最も当てはまるものを選択してください。 (Q5で①又は②を選択した人のみ回答)	小学生		中学生		保護者	
	45	割合	86	割合	211	割合
① 今(3時間程度)よりも多い方がよい	5	11.1%	17	19.8%	34	16.1%
② 今(3時間程度)と同じでよい	39	86.7%	64	74.4%	168	79.6%
③ 今(3時間程度)よりも少ない方がよい	1	2.2%	5	5.8%	9	4.3%



Q5で①又は②を選択した人のうち、休日の活動時間について質問したところ、児童・生徒・保護者とも7～8割が「今と同じでよい」と回答しており、休日に部活動を実施する場合の活動時間は、概ね3時間程度が妥当であることが分かります。

進学を機に、参加していた多種多様な地域・民間クラブ等を辞める小学生が多い

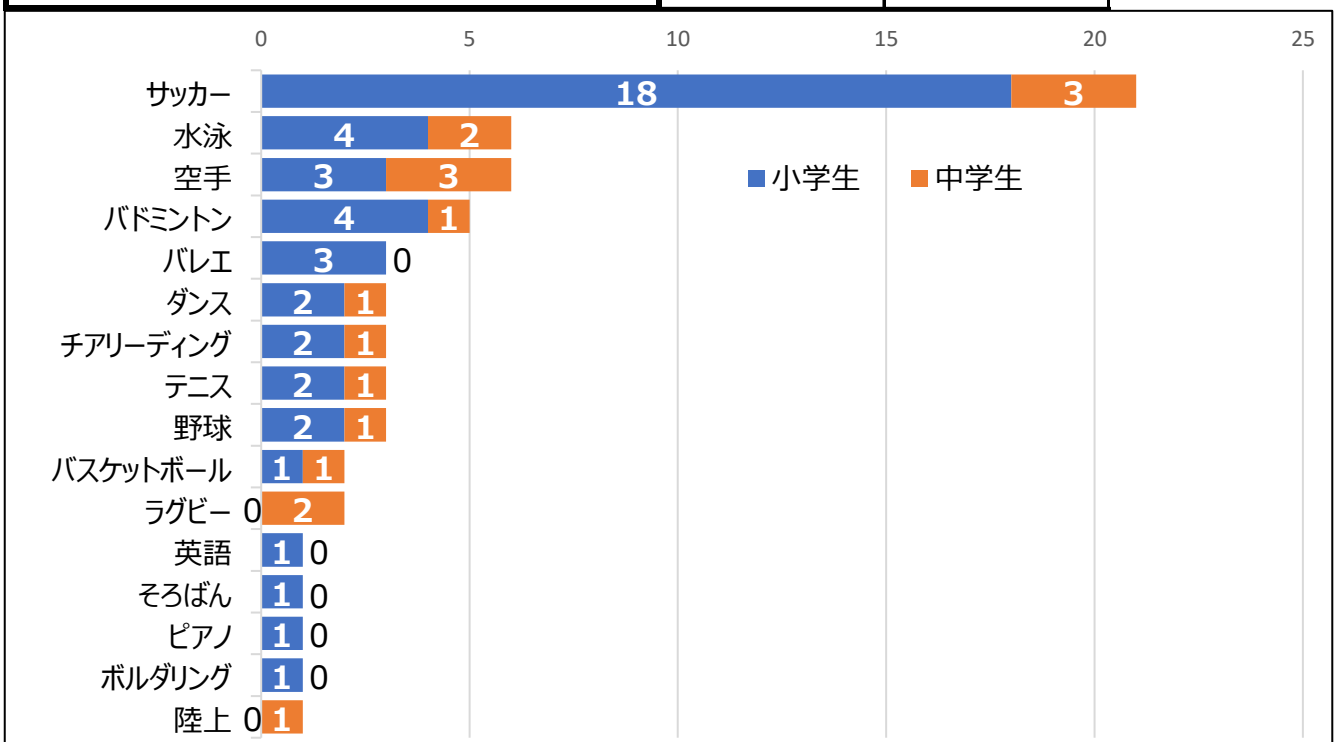
Q7 現在、地域・民間のクラブ等に所属していますか。	小学生		中学生		保護者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
① 所属している	41	47.1%	16	13.6%	93	34.3%
② 所属していない	46	52.9%	102	86.4%	178	65.7%



小学生のうち、約半数の児童が地域・民間のクラブ等に参加していますが、中学校に進学すると参加率は1割台に低下しています。中学校では、休日に部活動が実施されているため、進学を機会に、それまで参加していた地域・民間クラブ等を辞めてしまう小学生が多いことが考えられます。

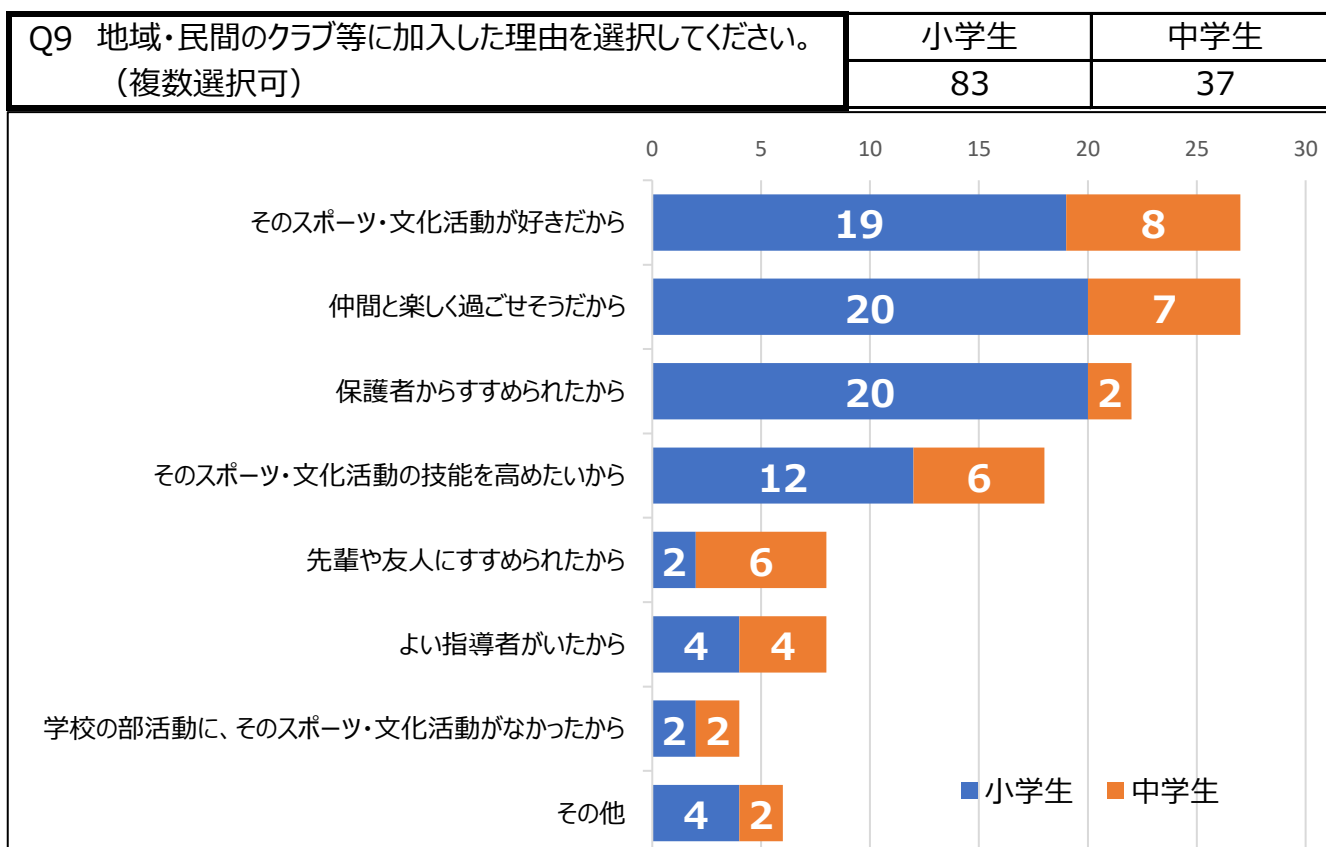
中学校に進学後も、地域・民間クラブ等の競技・活動を続けている生徒は少数

Q8 所属している地域・民間のクラブ等について、種目・活動等を入力してください。	小学生	中学生
		45



小・中学生が加入している地域・民間のクラブ等は、スポーツ系を中心に多岐にわたっていますが、中学校に進学しても競技を続けている生徒は少数派です。特に、サッカークラブについては、ほとんどの小学生が進学とともに競技を辞め、以降は中学校の部活動に参加していると考えられます。

地域・民間のクラブ等に参加した理由は、「活動への興味」と「保護者の勧め」が上位

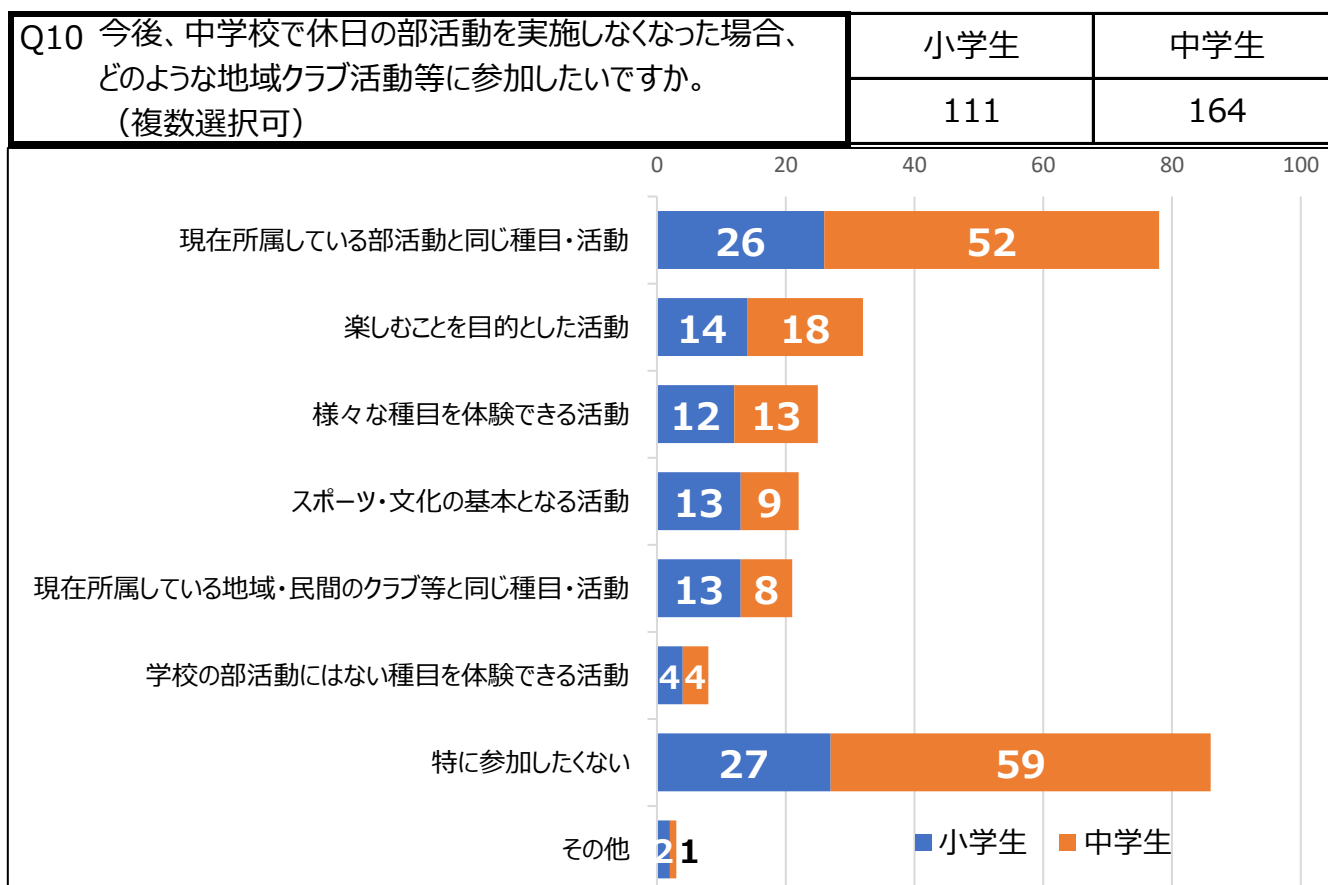


「その他」の記述

- ・テレビのドラマで見て面白そうだったから
- ・親がやっていたから
- ・プロを目指したいから
- ・テニスに興味があったから
- ・友達がやっていたから
- ・保育園でやって興味をもったから

小学生と比較して、中学生の地域・民間クラブ等への参加者が少ないため、回答数に偏りが見られるますが、地域・民間のクラブ等に参加した理由として「そのスポーツ・文化活動が好きだから」や「仲間と楽しく過ごせそうだから」などが多数派を占めていることに変わりはありません。また、小学生は「保護者にすすめられたから」の回答数が多いことも特徴です。

休日部活動が地域移行した場合、「同種目に参加」と「参加したくない」が同程度



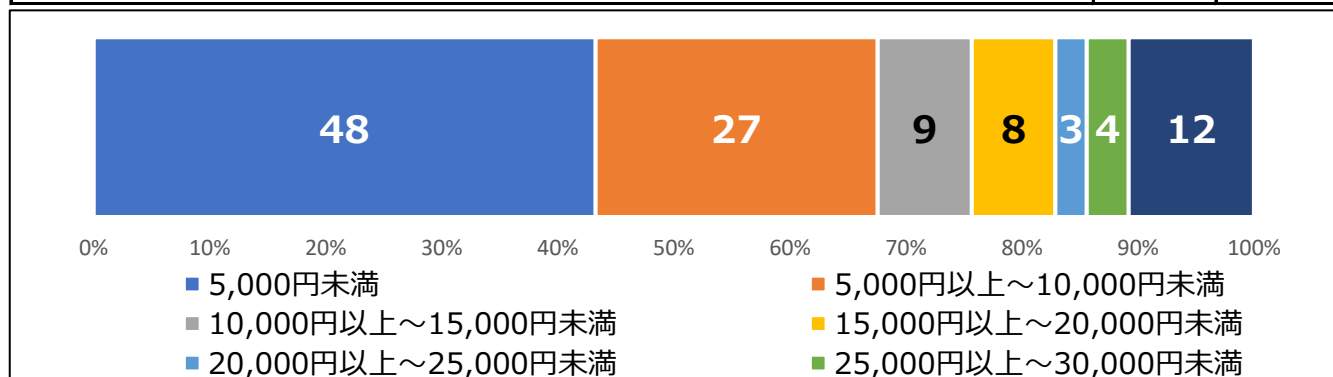
「その他」の記述

・分からない ・野球クラブチームに入部予定 ・体育を基本とした部活動

今後、休日の部活動を実施しなくなった場合、「現在所属している部活動と同じ種目・活動」と、「特に参加したくない」が、小・中学生ともに、ほぼ同数となっています。現在の活動と同じ種目や別の種目を行いたいと考えている児童生徒がいる半面、休日に更に別の活動を求めている児童生徒も多いことが分かります。

費用負担の平均値は、月平均千円程度となり、低額の費用で部活動ができています

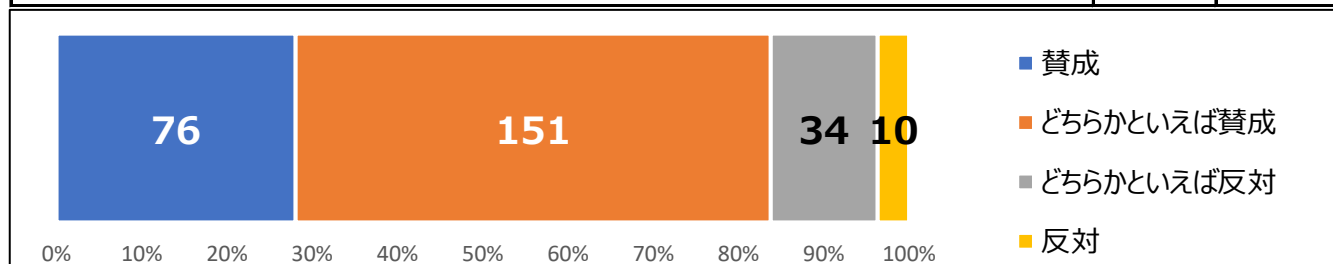
Q3 1年間で負担している部活動費や遠征費等は、合計でどのくらいですか。	回答数	割合
① 5,000円未満	111	
② 5,000円以上～10,000円未満	48	43.2%
③ 10,000円以上～15,000円未満	27	24.3%
④ 15,000円以上～20,000円未満	9	8.1%
⑤ 20,000円以上～25,000円未満	8	7.2%
⑥ 25,000円以上～30,000円未満	3	2.7%
⑦ 30,000円以上	4	3.6%
	12	10.8%



保護者が負担している部活動費や遠征費等は、部活動の種類により様々です。割合で見ると、全体の約3分の2が、年間1万円未満の費用負担となっていますが、平均値は年間約1万1千円程度となります。部活動は、平日はもちろん休日も教職員が指導を行っているため、報償費は発生しないことから、月平均1,000円程度の実費負担のみで活動ができていると考えられます。

8割以上の保護者が、休日部活動のを地域移行に肯定的な回答をしている

Q8 休日を中心に、学校部活動を地域クラブ活動へ移行し、地域・民間クラブ等の指導者や指導を希望する教員等が担うことについて、どのように考えますか。	回答数	割合
① 賛成	271	
② どちらかといえば賛成	76	28.0%
③ どちらかといえば反対	151	55.7%
④ 反対	34	12.5%
	10	3.7%

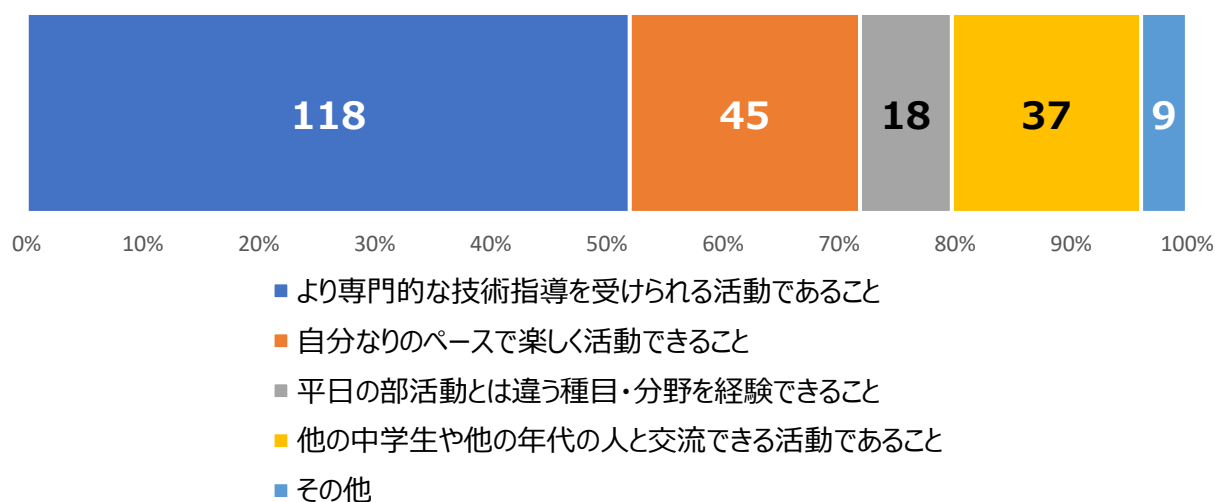


学校部活動を地域クラブ活動等へ移行することについては、8割以上の保護者が肯定的な回答をしています。部活動地域移行の目的である「生徒のスポーツ・文化活動への参加機会確保」と「学校における働き方改革」を両立するためには、部活動の地域移行を推進していく必要があることを理解している保護者が多いことがうかがえます。

約半数の保護者は地域移行により、「専門的な技術指導を受けられること」を期待

Q 地域クラブ活動への移行により期待する活動を教えてください。 9-1 (Q8で①又は②を選択した人のみ回答)	回答数	割合
① より専門的な技術指導を受けられる活動であること	118	52.0%
② 自分なりのペースで楽しく活動できること	45	19.8%
③ 平日の部活動とは違う種目・分野を経験できること	18	7.9%
④ 他の中学生や他の年代の人と交流できる活動であること	37	16.3%
⑤ その他	9	4.0%

- ・ 先生の仕事だけして欲しい
- ・ 従来の部活動のように、家庭環境等に左右されずに誰でも参加しやすいものであること
- ・ 先生の仕事に集中してほしい
- ・ 教員の負担が減り 授業など校内でやるべきことに集中する時間が増えること
- ・ どんな活動にせよ指導者が子供に対し熱意があり子供が成長でき、意欲的な活動であればよいと思う
- ・ 学校の教員のブラック雇用を改善できる。
- ・ 教員の休息と外部の方が技術は身につくはず
- ・ 先生の負担が減る
- ・ 内申点に関係ないのであれば部活ではなく勉強に集中してほしい

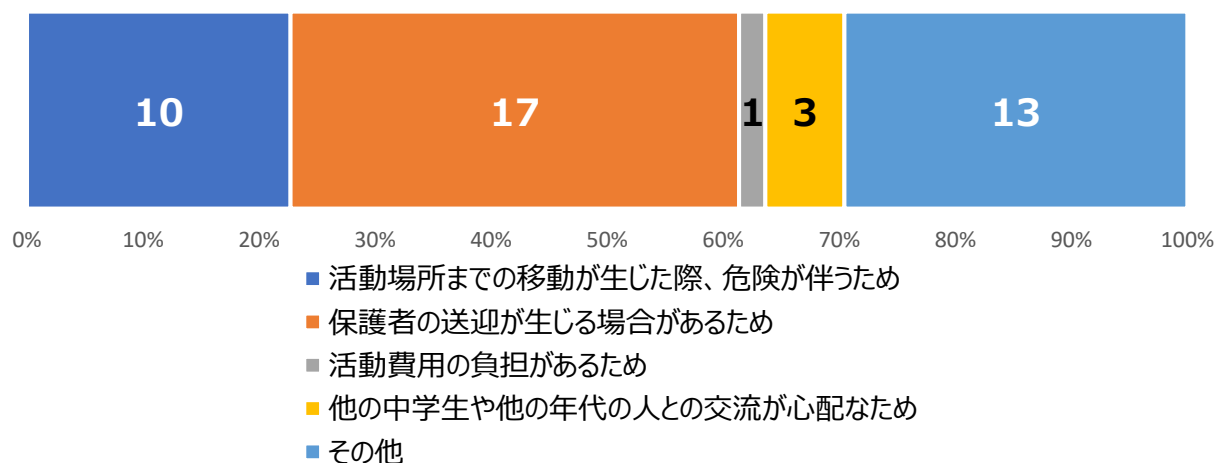


地域クラブ活動への移行による期待としては、「より専門的な技術指導を受けられる活動であること」が半数以上を占めており、次いで「自分なりのペースで楽しく活動できること」が続いています。また、その他の意見として、教職員の負担軽減を理由として挙げている回答が見られることから、部活動地域移行の目的の一つである「学校における働き方改革」を期待している保護者がいることがうかがえます。

反対理由は「送迎の負担」が多いが、「すぐに部活動がなくなる」と捉えている意見も

Q 地域クラブ活動への移行に反対する理由を教えてください。 9-2 (Q8で③又は④を選択した人のみ回答)	回答数	割合
① 活動場所までの移動が生じた際、危険が伴うため	10	22.7%
② 保護者の送迎が生じる場合があるため	17	38.6%
③ 活動費用の負担があるため	1	2.3%
④ 他の中学生や他の年代の人との交流が心配なため	3	6.8%
⑤ その他	13	29.5%

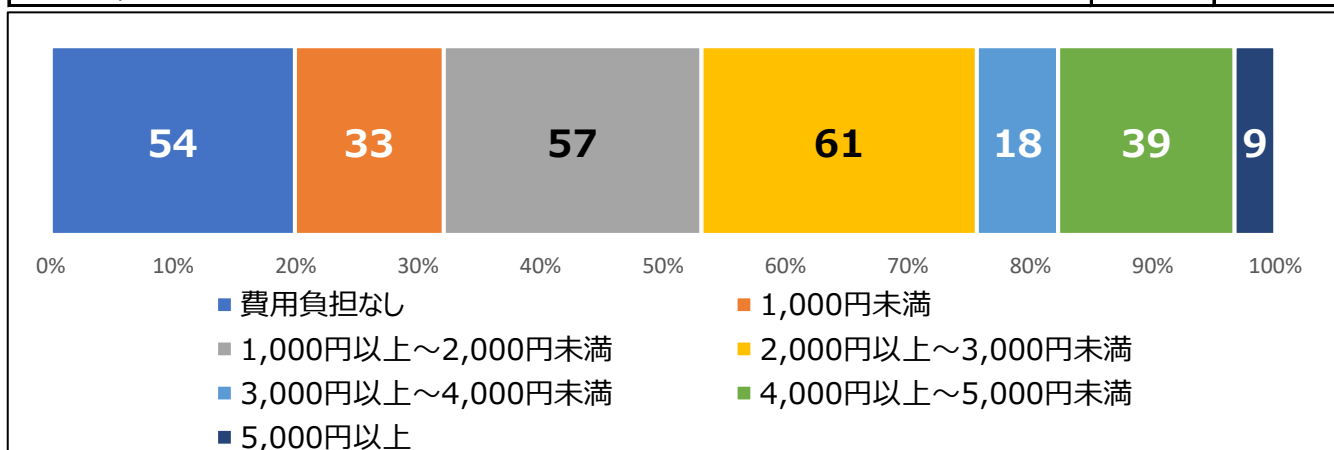
- ・生徒の教育は、日頃の学校生活とリンクしていると思います。そのため、学校生活の様子を把握している先生方にご指導をお願いしたいです。
- ・平日の部活動がなくなることに疑念がある。学校での部活動を通じて学べるもの、友人等との関係構築が希薄になってしまうことが懸念される。
- ・平日の部活動を通じて体得できる経験や、仲間との関係構築ができなくなるのではないかと思います。
- ・元々ある中学部活動の体験を通して友人との絆であったり成長をしてほしい。
- ・指導者が変わると混乱するのでは？顧問と生徒の絆を大切にしたい。信頼関係。
- ・費用はどうか、税金なのか自費なのか。お金が発生するならば、土日の活動はなくすべき。費用が必要ならば部活という項目はなくす。
- ・嫌な思いをしているため
- ・いわゆる部活動のイメージと違う
- ・仲間内のトラブルに対応できるか不安
- ・教員は土日休みでよい
- ・部活動を通して色々な経験ができる。部活は辛い先輩との関わりも辛いことがあるけど社会に出たときにそれがとても役に立つと思う。
- ・土曜日、日曜日は部活なし
- ・野球部に入りたいと考えてます。野球は、チームで戦うスポーツなので、指導者や仲間は、同じメンバーが理想です。土日だけ指導者が代わるとか、他の人たちに混ざって練習するのは、ちょっと違うかなと思います。



地域移行に反対する理由として、約4割の保護者が「送迎の負担」を挙げていますが、「その他」の意見も多く挙げられていることが特徴です。個別にみると、「部活動を通じた友人関係の構築」や「教員からの指導」を望む声がある一方、「すぐに部活動がなくなる」と捉えている回答もみられることから、「当面は休日のみ移行」「部活動と地域クラブは別組織」「任意参加」などの方針を丁寧に説明していく必要があります。

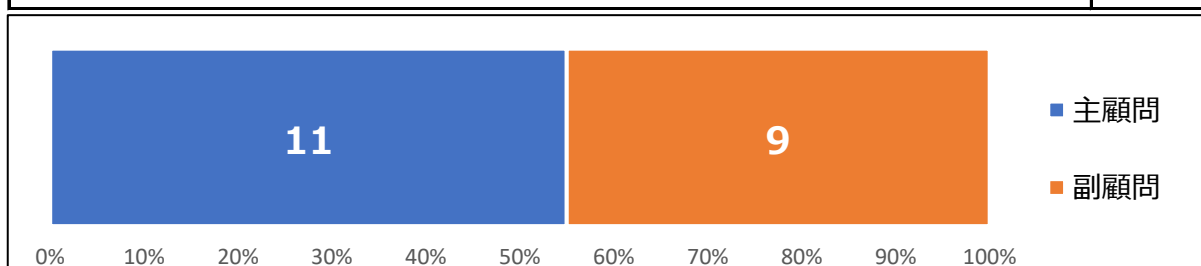
地域クラブ活動への費用負担は、約半数が月2,000円未満を許容範囲としている

Q10 地域クラブ活動への参加費（月謝）は、いくらまでであれば許容できますか。	回答数 271	割合
① 費用負担なし	54	23.8%
② 1,000円未満	33	14.5%
③ 1,000円以上～2,000円未満	57	25.1%
④ 2,000円以上～3,000円未満	61	26.9%
⑤ 3,000円以上～4,000円未満	18	7.9%
⑥ 4,000円以上～5,000円未満	39	17.2%
⑦ 5,000円以上	9	4.0%



地域クラブ活動への費用負担は、全体の約半数以上が月2,000円未満を許容範囲としています。【保護者】Q3にも記載したように、学校部活動は報償費が発生しないため、月平均1,000円程度の費用負担で活動を行うことができますが、地域クラブ活動は、民間・外部指導者への報償費が発生することから、受益者負担の増加は避けられません。

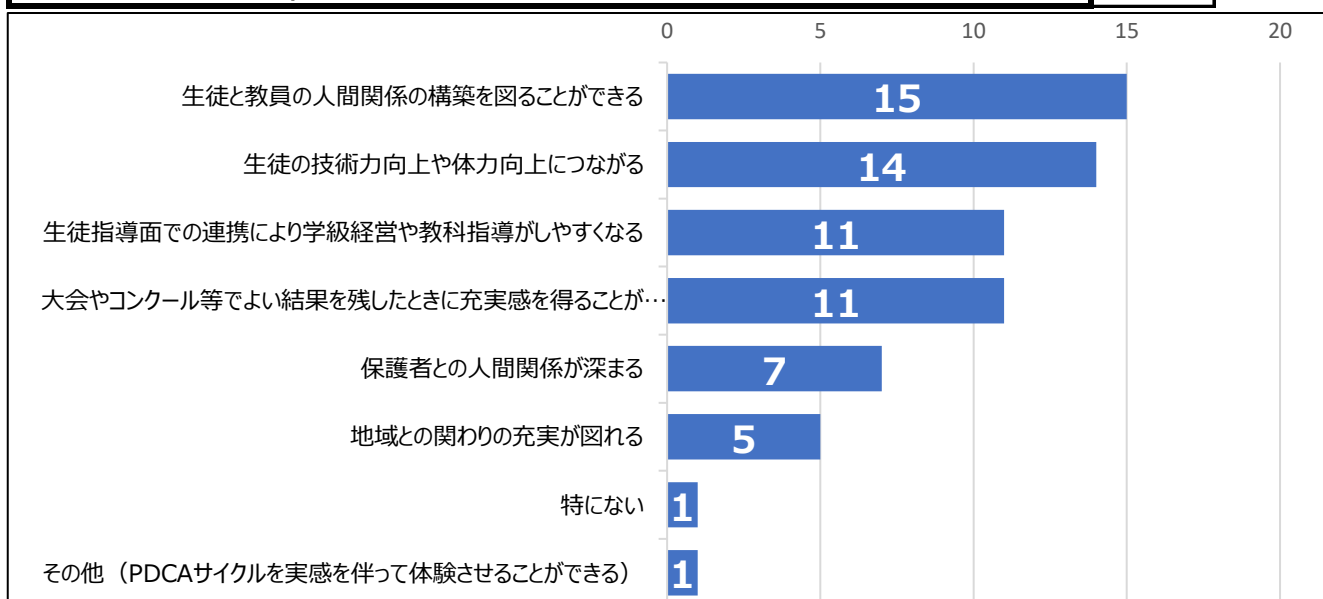
Q1-1 担当する部活動を選んでください。	回答数
Q1-2 担当する部活動の役割を選んでください。	20
ソフトテニス	3
野球、バスケットボール、サッカー、バドミントン、卓球、柔道、吹奏楽	各2
バレーボール、剣道、美術	各1



「生徒との人間関係構築」や「生徒指導面の連携」等、教育活動としての意義を重視

Q2 部活動指導におけるやりがいについて、あなたの考えに近いものはどれですか。
(複数回答可)

回答数
64



教員が部活動指導を行うに当たっては、「生徒と教員の人間関係の構築」や「生徒指導面での連携」による学級経営や教科指導における好循環などを「やりがい」として挙げています。「技術・体力向上」や「好成績による充実感」など、部活動における直接的な成果と同等かそれ以上に、教育活動としての部活動の意義を意識した指導を行っていることが分かります。

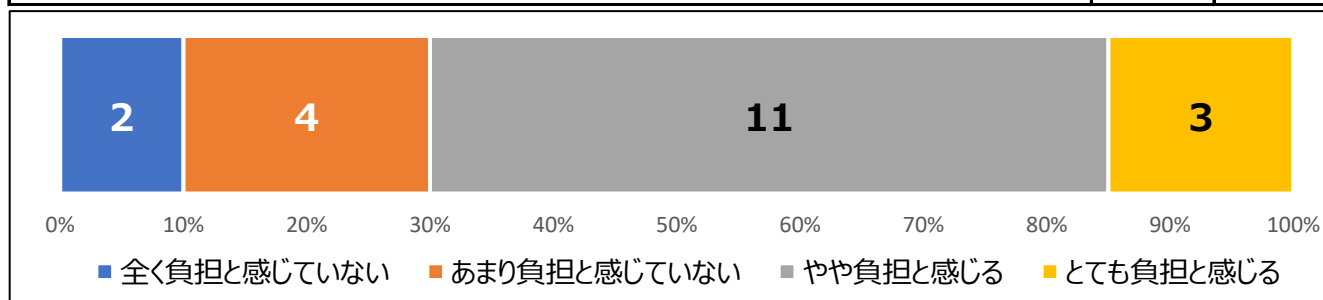
部活動顧問を引き受けている教員の7割が、部活動指導に対して負担を感じている

Q3 あなたは部活動を指導することについて負担を感じていますか。

回答数
20

割合

① 全く負担と感じていない	2	10.0%
② あまり負担と感じていない	4	20.0%
③ やや負担と感ずる	11	55.0%
④ とても負担と感ずる	3	15.0%

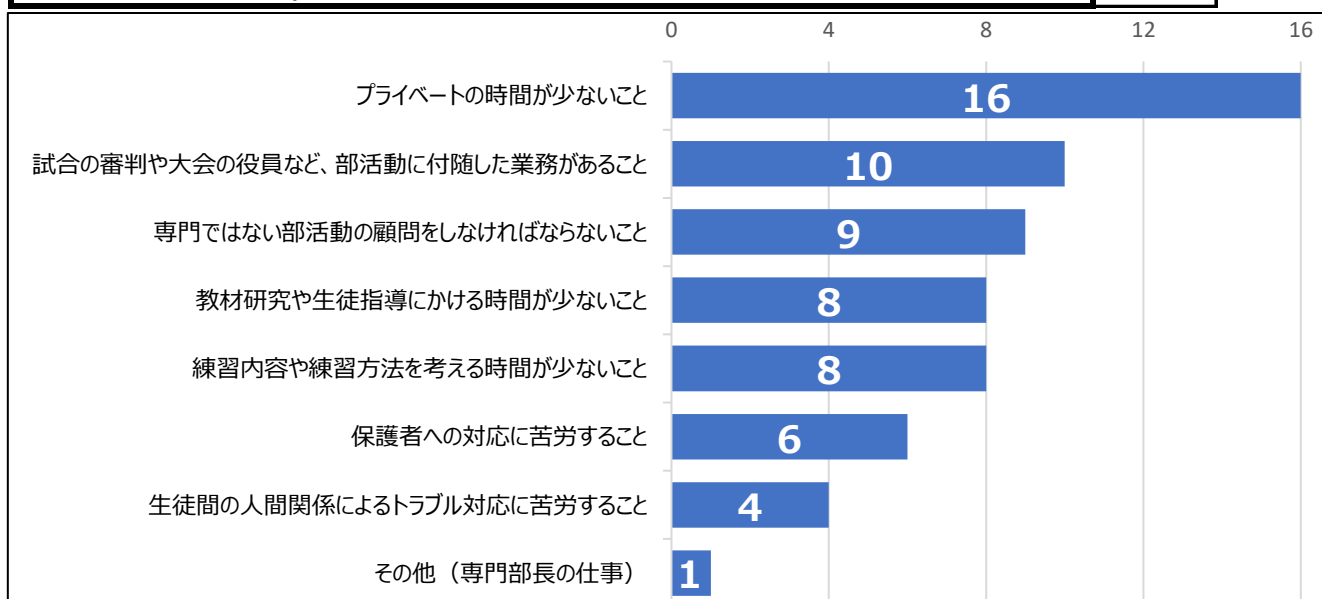


部活動を指導することについて、顧問を引き受けている教員の7割が「負担と感じている」「やや負担と感じている」と回答しています。多くの教員は本務である教科指導や学級経営、校務分掌とは別に、教育課程外活動として勤務時間を超えて部活動に従事していることから、負担感が強く現れています。

土日祝日等の部活動指導により、プライベートの時間が少ないことが大きな負担

Q4 部活動指導における負担について、あなたの考えに近いものはどれですか。
(複数回答可)

回答数
61



部活動指導の負担として最も多い回答が「プライベートの時間が少ないこと」であり、「部活動に付随した業務」や「専門外の顧問」など、他の項目を大きく引き離しています。部活動顧問は、平日放課後はもちろん、土日、祝日、長期休業中など、学校休業日にも多くの時間を、他校との練習試合や大会・コンクールへの参加などに費やしており、教員の大きな負担となっていることが分かります。

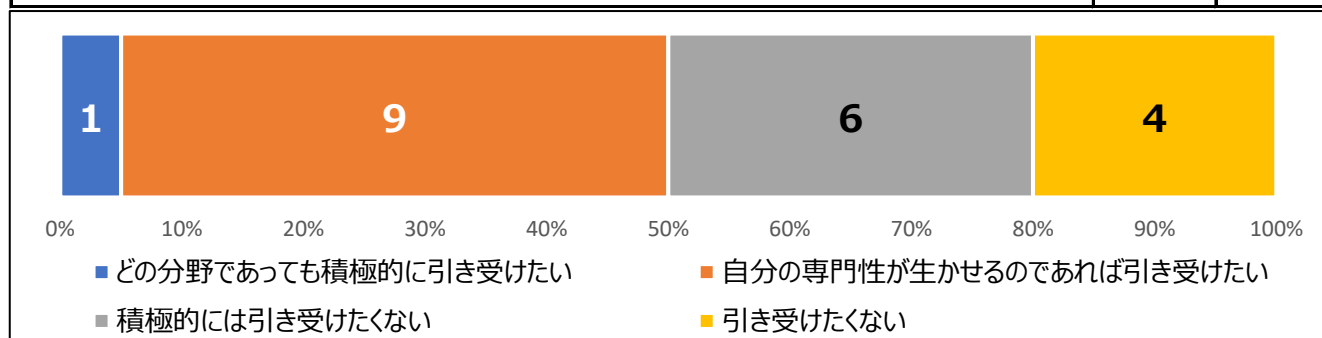
専門外の指導への負担感などから、約半数が部活動顧問を回避したいと考えている

Q5 今後、部活動の顧問を引き受けることについてどのように考えますか。

回答数
20

割合

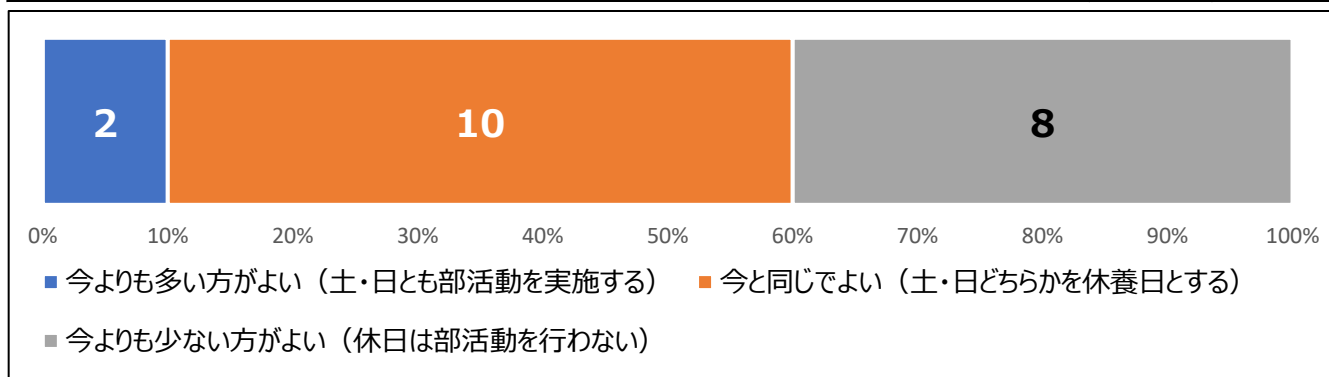
回答番号	内容	回答数	割合
①	どの分野であっても積極的に引き受けたい	1	5.0%
②	自分の専門性が生かせるのであれば引き受けたい	9	45.0%
③	積極的には引き受けたくない	6	30.0%
④	引き受けたくない	4	20.0%



今後、部活動顧問を引き受けることについて、「自分の専門性を生かせるのであれば引き受けたい」が最も多い回答であることから、専門外の部活動を指導することが、教員の負担となっていることがうかがえます。また、半数の教員が、顧問を引き受けることに対して否定的な回答をしており、平日の勤務時間外や休日に実施されている部活動の顧問を、できることなら回避したいと考えていることが分かります。

小学生と同じく部活動の顧問も、「休日は部活動を行わない」ことを求める声が多い

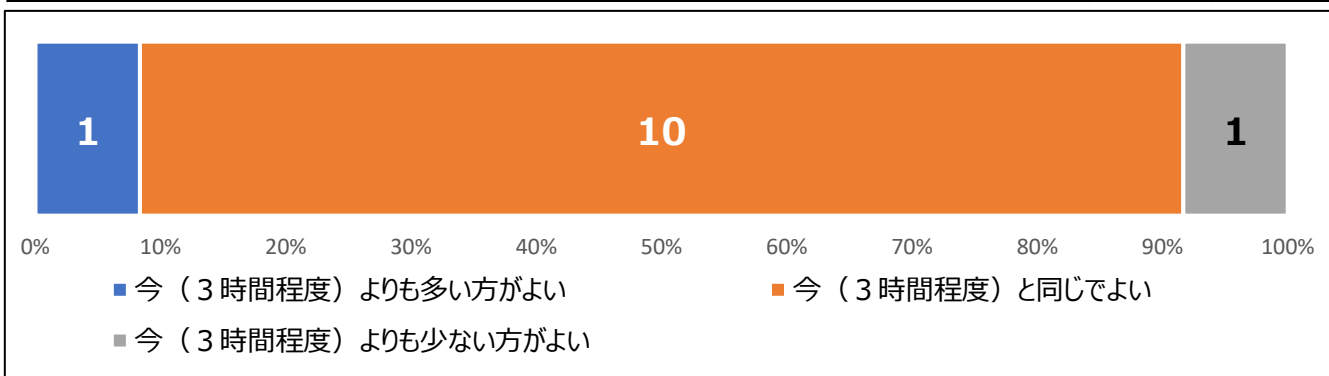
Q6 休日の部活動についてお聞きます。当てはまるものを選択してください。	回答数	割合
① 今よりも多い方がよい（土・日とも部活動を実施する）	2	10.0%
② 今と同じでよい（土・日どちらかを休養日とする）	10	50.0%
③ 今よりも少ない方がよい（休日は部活動を行わない）	8	40.0%



原則週1日以上としている休日の部活動の休養日について、「今と同じでよい」と回答している教員が約半数であるのに対し、「今よりも少ない方がよい」との回答も4割に上ります。対象数が少ないため、参考程度となりますが、小学生と同じく部活動の顧問も、「休日は部活動を行わない」ことを求めている割合が多いことが分かります。

児童生徒・保護者と同様に、休日部活動の活動時間は概ね3時間程度が妥当

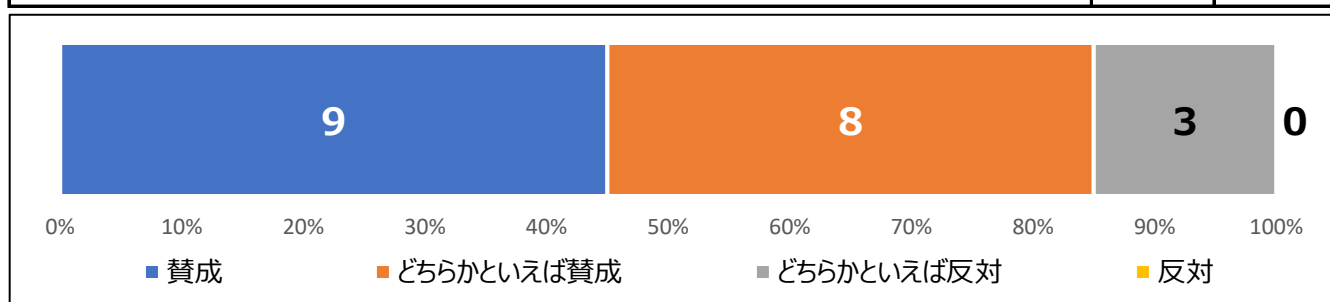
Q7 休日の活動時間について、最も当てはまるものを選択してください。 (Q6で①又は②を選択した人のみ回答)	回答数	割合
① 今（3時間程度）よりも多い方がよい	1	8.3%
② 今（3時間程度）と同じでよい	10	83.3%
③ 今（3時間程度）よりも少ない方がよい	1	8.3%



【教員】Q6で①又は②を選択した人のうち、休日の活動時間について質問したところ、8割以上が「今と同じでよい」と回答しています。これは、児童・生徒・保護者の平均とほぼ同じであり、休日に部活動を実施する場合の活動時間は、概ね3時間程度が妥当であることが分かります。

保護者と同様に、ほとんどの教員が段階的な休日部活動の地域移行を望んでいる

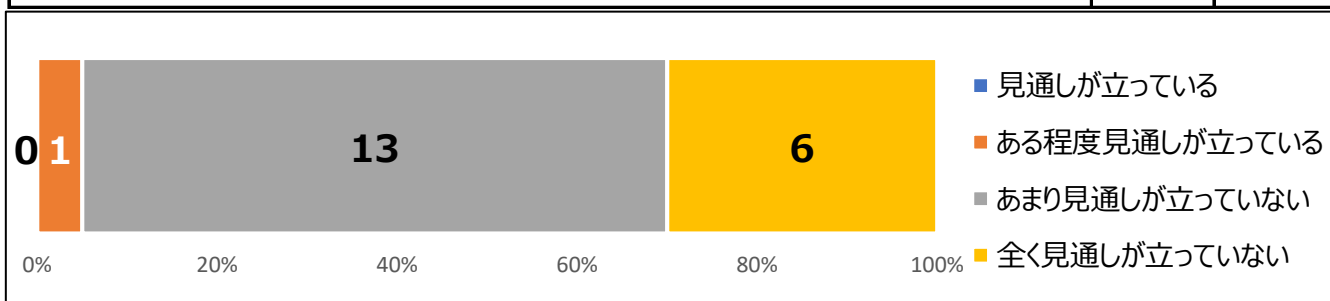
Q8 今後、段階的に休日の部活動を地域移行していくことについて、最も当てはまるものを選択してください。	回答数	割合
① 賛成	9	45.0%
② どちらかといえば賛成	8	40.0%
③ どちらかといえば反対	3	15.0%
④ 反対	0	0.0%



「賛成」と「どちらかといえば賛成」が全体の8割以上を占めており、ほとんどの教員が休日部活動の地域移行を望んでいることがわかります。これは、保護者の回答とほぼ同じ割合であり、「生徒のスポーツ・文化活動への参加機会確保」と「学校における働き方改革」を両立するためには、部活動の地域移行を推進していく必要があることを裏付けています。

地域移行に向けては、ほぼ全ての部活動で「あまり・全く見通しが立っていない」

Q9 あなたが担当する部活動は、休日の地域移行に向けた見通しが立っていますか。	回答数	割合
① 見通しが立っている	0	0.0%
② ある程度見通しが立っている	1	5.0%
③ あまり見通しが立っていない	13	65.0%
④ 全く見通しが立っていない	6	30.0%

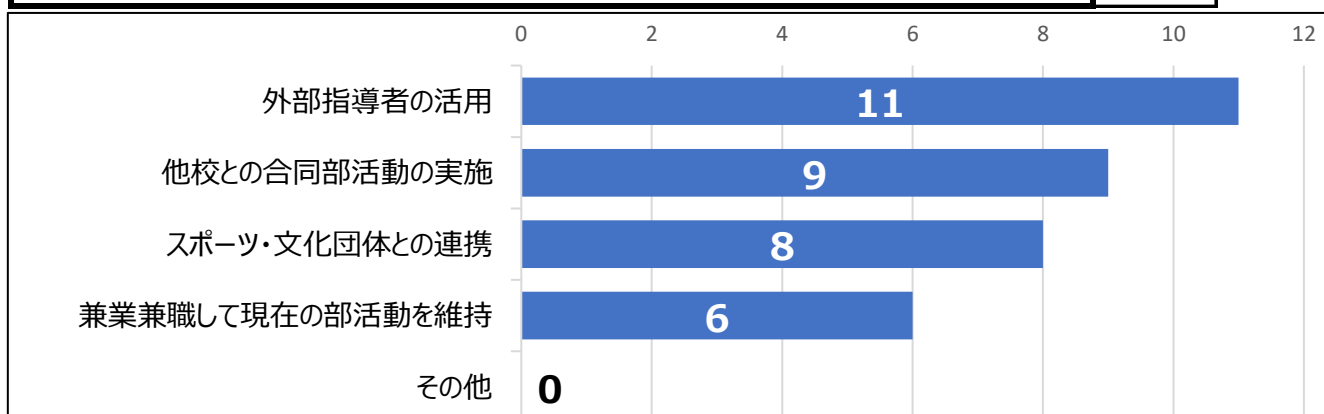


休日の地域移行に向けた見通しについては、ほぼ全ての部活動顧問が「あまり・全く見通しが立っていない」と回答しています。現在の部活動の組織を維持したまま、全てを引き継いでもらえる「受け皿」を探そうとすると、部活動の地域移行はなかなか進みません。今後、次の設問項目にあるような、様々な運営体制を模索していく必要があります。

現時点での実現可能な手立ては、部活動の地域連携を主軸としたものに留まる

Q10 休日の地域移行に向け、担当する部活動において、現時点で実施可能な手立てを選んでください。（複数選択可）

回答数
34



部活動の地域移行に向けては、様々な選択肢が考えられますが、現時点での実現可能な手立てとしては「外部指導者の活用」や「合同部活動の実施」など、学校部活動の地域連携を主軸としたものに留まっています。休日の地域クラブ活動の実施に当たっては、スポーツ・文化団体との連携を模索していく必要があります。

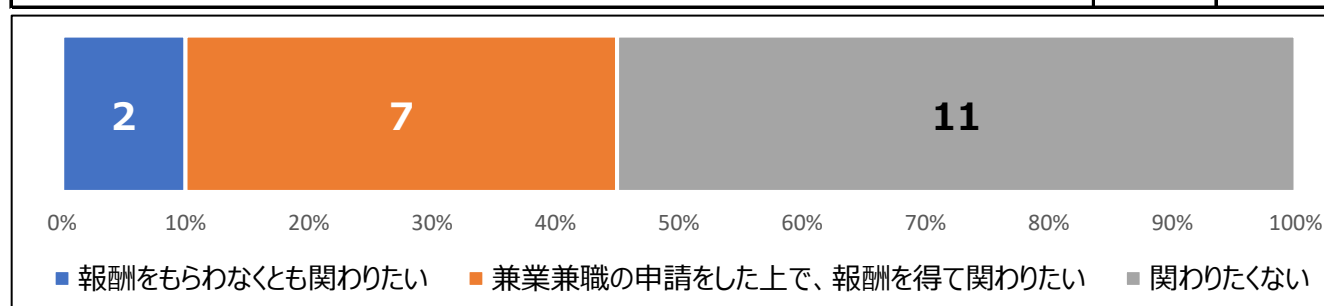
地域移行後は「関わりたくない」が約半数も、「報酬を得て関わりたい」も一定数あり

Q11 休日の部活動が地域移行した場合は、その活動に関わりたいですか。

回答数
20

割合

① 報酬をもらわなくとも関わりたい	2	10.0%
② 兼業兼職の申請をした上で、報酬を得て関わりたい	7	35.0%
③ 関わりたくない	11	55.0%



休日部活動が地域移行された場合、顧問を引き受けている教員の半数以上が、「関わりたくない」と回答しています。【教員】Q4の回答にもあるとおり、部活動顧問を引き受けることでプライベートの時間が確保できないなど、多くの負担感があることが要因と考えられます。一方、「兼業兼職を申請した上で、報酬を得て関わりたい」などの回答もあることから、部活動の指導に対して報酬を得られるのであれば、地域移行後も関わりたいと考えている教員も一定数いることがうかがえます。

部活動の地域移行に概ね賛成とする意見が多いが、多くの課題を指摘する声も

Q12 現在の部活動や、今後の地域移行について、あなたの率直なご意見をお聞かせください。

- ・ 地域移行した場合、兼業兼職として携わりたいが、地元の学校で行いたいと思っている。
- ・ 部活動と地域クラブチームを連携させることは難しいと思う。
- ・ 地域移行となった場合は、学校として土日の大会に出るのか、またその際の運営や引率は教員が担うのかなどの疑問があります。現状の学校ごとに出るような大会等もなくなれば、地域移行の実施も少し簡単になるのではないかと思います。また、地域移行のスケジュールにそれぞれの市町村や学校でばらつきが出るとはありますが、その際、ある学校の生徒は大会に出れる、別の学校の生徒は出れないのようにならないかよいと思います。
- ・ 困窮家庭でも参加できる地域体制を整えてあげて欲しいです。
- ・ 現実的に厳しいのではないかと考えている。生徒指導上の役割も大いに果たしており、今後その面もどうなっていくか不安なところである。
- ・ 専門的な知識や技術を持った方から生徒が指導を受けられるのはありがたいことだと思います。しかし、人間関係や教育的な配慮までお願いするのは難しいと考えています。
- ・ 部活動のよさはあるが、土日の活動は地域移行できるならそれもいいと思う。
- ・ 休日だけでなく、平日の部活に関しても改革が必要ではないかと思っています。
(完全下校の時間の上限を設ける(18時は長すぎる)、休養日を増やすなど(クラブチームなどは、隔日の活動がほとんど))
- ・ 地域移行が進んでいる学校の取組例や移行の具体的な進め方などを知りたいと思います。現状では、目の前の活動や業務に追われて、自分たちがどのように動けばよいのか見えない状態です。
- ・ 部活動にやりがいを感じて十数年間顧問を続けましたが、だんだんと負担に感じてくようになりました。しんどいと思うこともあります。なくなっていくのは寂しいですが、家庭や自分の時間も大切にしたいですしホッとしている部分もあるので、早く実現していただきたいです。
- ・ 地域移行された場合も学校行事等がある場合は、ある程度行事を優先していただけるとありがたい。
- ・ 保護者の方の中には、放課後の部活動や土日の部活動を教員が見て当たり前(教員の仕事)と思っている方がいます。地域移行に関しては賛成ですが、それを保護者の方がしっかり理解できるように説明などしてほしいです。
- ・ 移行をしていただきたい。
- ・ 生徒が不安に思わないように進められるのが一番だと思います。

部活動の顧問を引き受けている教員に対し、現在の部活動や今後の地域移行について意見を聴取したところ、部活動の地域移行には概ね賛成とする意見が多く見られます。しかし、地域クラブチームとの連携や生徒間の人間関係、教育的な配慮を含めた指導など、実現に向けたハードルも多いことから、現実的に厳しいのではないかという声も挙げられました。

また、長年の慣習から「部活動は教員がみるもの」という考えが、児童生徒や保護者に浸透していることから、地域移行に当たっては、その目的である「生徒のスポーツ・文化活動への参加機会確保」と「学校における働き方改革」を両立するために、方針を丁寧に説明していく必要があります。